

“公德(こうとく)”とは

小生の名前は、公德(きみのり)である。

父の親方(中規模プレス金型製作会社の社長)に命名していただいた。

小学校の時、全校生徒参加の朝礼で校長先生から何らかの表彰状を頂いた時(悪いことではなかったはずだが・・・)、“おりかさこうとく”と読まれたことがある。

また、中学校の遠足?のバスの中で、配られたゴミ袋に“公德袋”と書かれていて、担任の和子先生(つい最近亡くなる前までかわいがっていただいた心の恩師)に、あなたは立派な名前なのよと言われたことがある。

高専か大学の時に、だれかに名前負けしていると言われたことがある。

その後、ほとんど忘れていたのだが……。

『広辞苑では、“公德”とは“社会生活の中で守るべき道德”とある。』

つい最近、新聞の広告欄で“公德の国 JAPAN”という本の存在を知ったのである。

驚きと恥ずかしさと好奇心で、さっそくその本を購入した。

“公德の国 JAPAN”

倉田信靖(くらた・のぶやす)著

略歴 1937年生まれ。大東文化大学文政学部卒業。

大東文化大学教授。同大学名誉教授。マスコミ総合研究所理事長。

米国ウィラメット大学名誉人文学博士。

現在、東京国際大学理事長・総長。

内容を紹介

『わたくしは、「公德心」とは、民族、思想、宗教などの桎梏(しっこく)※を超越したところに認められる協調と調和の倫理哲学であると考えている』

『「人間の能力には、いずれにせよ、優劣があります。しかし、公德心には優劣がありません」「それぞれの立場で、どうすれば社会に貢献できるかということを常に意識し続けたいといけない」この言葉は、わたくしが「公德心」への期待を込めて日頃から周囲の人々にお話しているものです。

この世界に共有することのできる人間の思懼は必ず存在すると信じている、それは、人類のあらゆる宗教や、政治などの対立を超えて、人間として共有できる価値観の存在を信じているということでもあります。』

※「桎」は足かせ「梏」は手かせの意 人の行動を厳しく制限して自由を束縛するもの

“公德(こうとく)”は、これからの小生の人生の大きな指針にしたい。

